

浪江で農業を始めませんか？

就農に関する相談を受け付けています



浪江町農林水産課では、町内での新規就農に関する相談を随時受け付けています。就農前の研修先や各種支援制度についてもご紹介することができます。就農イベントにも積極的に参加していますので、ぜひお気軽にお問い合わせください！

町の就農に関する  
情報はこちら



福島県で農業しよう！  
ふくのう



相双就農  
ポータルサイト



浪江フラワープロジェクトの  
最新情報をホームページで！

これまでの花通信やアーカイブ動画を公開中！

<https://www.namie-flower.jp>



Facebookも  
チェック

浪江町 農林水産課

〒979-1592 福島県双葉郡浪江町大字幾世橋字六反田7-2

TEL: 0240-34-0245

<https://www.town.namie.fukushima.jp>



# なみえ花通信

浪江の花作りと農業の最新情報をお届け！



# “農業も咲かせる浪江町”

## 一緒に農業をはじめませんか？

現在、福島県浪江町では、新たに農業を始める人が増えています。被災地復興を目指し、ゼロから始まった花の栽培は、2024年9月時点で営農者が10組にまで増え、花市場では「浪江ブランドの花」として広く知られるようになりました。また、野菜や果物の栽培も多様化し、米、長ネギ、玉ネギ、ニンニク、エゴマ、イチゴ、ブドウ、梨など、さまざまな農産物の生産が始まっています。町外からの就農者や企業の参入も増えており、活気を取り戻しつつあります。

今年の春には、津島地区・末森地区が「特定復興再生拠点解除区域」として14年ぶりに田植えが行われ、米の安全性を確認するための試験栽培がスタートしました。営農再開に向けて、一步一步着実に進んでいます。新しい農業の形、そして新しい未来の暮らしを浪江町で始めてみませんか？



写真は主な営農者です。2024年9月現在、浪江町では約40組の営農が行われています



津島復興組、津島地区住民、その他関係者約20名が集まり手植えで作業されました



初出荷を迎えた圃場と、出荷作業をする関口さん(写真はジュリアスラベンダー)



「浪江町花農家の先輩たちのおかげでここまでできました」と語る関口さん



## 新規営農の関口卓磨さん、トルコギキョウ初出荷！

今年4月から浪江町で新たに営農を始めた、屋号“Farm Eolica”（ファーム エオリカ）の関口卓磨さんが育てた初めてのトルコギキョウが、7月に出荷されました。主に東京の花市場に出荷されたのは、「ジュリアスラベンダー」という品種のトルコギキョウ約240本です。

研修で指導を担当したNPO法人Jinの清水代表と川村さんが初出荷の様子を視察し、「営農1年目での初出荷としては非常に良い花が育っています。努力の成果ですね」とコメントしました。

8月に今期のトルコギキョウの出荷を終えた関口さんは、「出荷作業にはまだ慣れておらず、深夜までかかった点は今後改善していきたいです。その一方、花の品質が市場で高く評価され、自信になりました。今後はスプレーマムやストック、金魚草の栽培に取り組み、今期をしつかり乗り切りたいです」と心境を語っていました。

## 福島県内の花屋さんが 浪江町の花農家を視察!

福島県内の花屋で構成される「福島花卉商業協同組合 青年部」の皆様が、浪江町の花農家を視察し、さまざまな意見交換会も行われました。初めて花の生産現場を訪れた若手花屋さんからは、「これまで市場で購入していましたが、生産者の顔を見ることで、より一層大切にお客様に送り出したいと思いました」との感想がありました。特に注目されたのは営農1年目の「Farm Eolica」さんで、花屋さんたちは「1年目でこれだけの花作りができるのは、浪江町の先輩花農家やNPO法人Jinの清水代表・川村さんの指導がしっかりしているからですね」と驚きを隠せませんでした。

さらに、株式会社福島花きの橋本社長は、「浪江町の生産者が真摯に花作りをしていることはよく知っています。しかし、福島県全体の花農家の底上げも期待しており、浪江町の花農家には県全体の花作りをリードしていただきたい」と期待を寄せていました。



「広い圃場がしっかり管理されている」と語る石川会長(左)と小野田さん(右)



浪江町小野田地区 ひろくんふぁーむの圃場を訪れたJA常陸奥久慈枝物部会のみなさん



花屋さんと花農家が一同に集り、忌憚のない意見交換が行われました。



圃場視察では、実際の栽培現場を見ながらニーズの確認などが行われました。



## 全国的な花木産地も注目! JA常陸 奥久慈枝物部会、 ひろくんふぁーむ を視察

全国的に「枝もの(花木)」の産地として知られる『JA常陸奥久慈枝物部会』の約20名が、浪江町を視察しました。同部会は、約140名の部会員が年間約250品目の枝ものを出荷し、切り枝の算出額で全国1位を誇る大規模産地です。

会長の石川幸太郎さんは、震災後から小野田浩宗さん(ひろくんふぁーむ)の支援を始め、「小野田さんが浪江町の農業を復興したいという強い思いで私たちの産地を訪れ、枝ものに取り組む決意を示してくれました。その思いに応え、私たちも植え付けから一緒に始めました。最近では売上も順調で、経営がうまくいっていると聞き、安心しています」と振り返りました。

現状については「畝幅が広く、陽当たりが良いため、高品質な花木が育っています。丁寧に栽培されているのが分かりました」と評価。浪江町のひろくんふぁーむは、枝もの先進地区の取り組みをしっかりと継承しており、今後のさらなる発展が期待されます。

## What's new? 浪江の旬な情報をお届け!

### What's new 01 津島地区で試験栽培が開始!



福島県浪江町「津島地区」で、米の安全性を確認する試験栽培が開始され、津島復興組合、津島地区住民、その他関係者約20名が集まり、震災後14年ぶりに田植えが行われました。副組合長の菅野雄造さんは、「まだ0.1歩かもしれませんが、大きな前進です」と喜びを語り、若い世代の参加にも期待を寄せています。

### What's new 02 就農リアルライフストーリー 始動!



浪江町の地域おこし協力隊 浅山昂さんが就農を目指し活動を始めました。東京農業大学の学生の頃から浪江町を訪れ、農業の担い手不足を実感した浅山さんは、浪江町の農業を支えるために決意を固めました。現在、地元の人々と交流しながら営農形態を模索しており、その過程をリアルに伝える「就農リアルライフストーリー」を浪江町フラワープロジェクトのFacebookで連載中! 新しい挑戦に注目です。



Eat at the local Namie Town.

## 味わってみよう!

# 浪江町産

“農業を咲かせる浪江町”では今、野菜から果物まで、さまざまな農業がスタートしています。その浪江町産農産物を浪江町ならではの食べ物を紹介! 「味わってみよう! 浪江町産、美味しくたべよう浪江町産」。ぜひご家庭で召し上がってくださいね。

## 浪江町の収穫シーズンを味わいつくす!



浪江町は、豊かな自然と新しい農業の取り組みが進み、さまざまな旬の味覚が出荷されています。9月にJR大宮駅で開催された「南東北産直市」に、浪江町産のイチジクが初出品され、なんと1時間半で完売! 地元の人々も驚くほどの人気ぶり、浪江の食材が広く受け入れられていることを実感しました。

果物では、若手農家の吉田実和さんが手がけるシャインマスカットやナガノパープルなどのブドウも、甘さとみずみずしさで大評判。また、笠井宏光さんが栽培する梨「あきづき」は、秋の訪れを感じさせる芳醇な味わいが特徴で、多くの人に愛されています。

もちろん、暑さにも負けず、順調に育ったお米は今年も上々の出来です。浪江町は、豊かな自然の恵みを生かし、美味しい食材が次々と生まれる場所。ぜひ足を運び、旬の味覚を楽しんでみてください!

